

カワラバッタ

バッタ目バッタ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー なし

Eusphingonotus japonicus (Saussure)

選定理由

全国的に産地が減少している。石川県では手取川下流部で確認されているが、近年の堤防内の土木工事の影響で個体数が激減している。

形態

体長は35mm前後である。体色は灰青色で河原の石と紛らわしい。後翅中央部に褐色の半円帯があり、その内側が鮮やかな青色をしているのが特徴である。

国内分布

日本特産種で、本州、四国、九州に分布している。

県内分布

手取川の天狗橋より下流域に点在して生息している。

生態

河川の増水によって生じた草本類の少ない砂礫地に適応した種で、着陸時には石の上を好んで降りる習性がある。成虫は7月から10月まで見られる。

生息地の条件

大雨時には水が流れて水没するような、草の生えていない広い砂礫地の河原において特異的に生息する。したがって河床が安定し、河原に草本類が多くなると、本種は生息できなくなる。

生存の危機

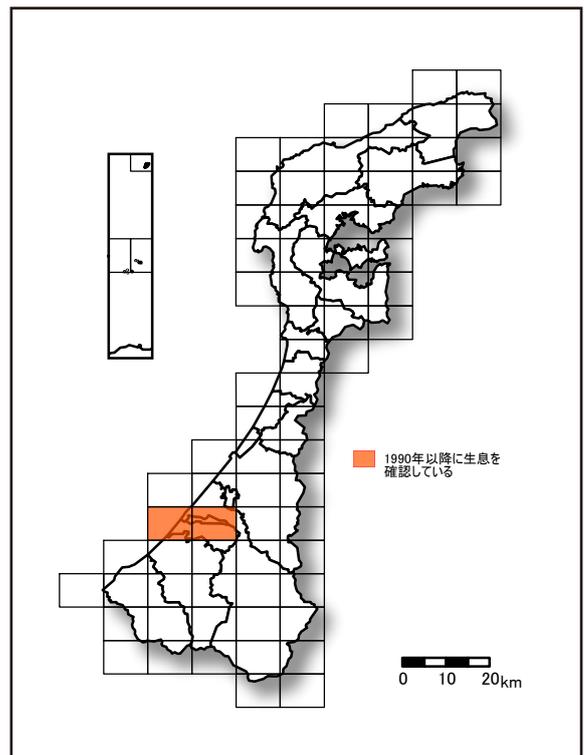
堤防内の土木工事によって河床の安定化が進み、河川敷への植物の進入が容易になってきている。そのため砂礫河川敷に強く適応した本種は好適な生息場所を失い、全国的に生息地が減少している。石川県でもかつては手取川下流域に広く生息していたが、減少傾向にあり、特に2007年からの大規模な河川土木工事により、現在の生息地はごく一部に限られ、危機的状況にある。河川敷内の土木工事は河原の自然環境に配慮し、最少限にとどめるべきである。(A, B)

参考文献

富沢 章 2004. 手取川流域におけるカワラバッタの分布. とっくりばち, (72) : 7-8.



写真提供者: 富沢章



県内の分布